

コレクション展 2018- III  
コレクション・ハイライト+特集「顔のような」  
2018年11月3日(土・祝)～2019年2月3日(日)

広島市現代美術館ではコレクション展 2018- IIIを開催します。本展は優品を選びすぐった前半の「コレクション・ハイライト」と、「顔のような」と題した後半の特集展示により構成されます。

●コレクション・ハイライト

当館のコレクションを代表する重要な作品から、20世紀の現代美術の潮流を牽引した作家たちによる作品を紹介します。

【出品作家】(予定、展示順)

クルト・シュヴィッターズ、ジャン・アルプ、ヘンリー・ムーア、カレル・アペル、レオン・ゴラブ、工藤哲巳、三木富雄、高松次郎、中西夏之、荒川修作、篠原有司男、田中敦子、元永定正、饗嘸、桑山忠明、フランク・ステラ、モーリス・ルイス

●特集「顔のような」

この度の特集では、顔をモチーフにした作品に注目します。

とはいえ、いわゆる肖像画を集めるわけではありません。なかには誰の顔か分からないもの、顔がないものもあります。そもそも顔とは、正面から向きあって凝視することの難しいものです。場合によっては、こっそり盗み見るしかできないこともあるでしょう。

終生顔を描き、彫りつづけたアルベルト・ジャコメッティはこう言ったそうです。「顔を描いてはならない、顔は画面の上で生まれるのでなければならない。つまり、そこにあるものとしてではなく、逆に無いものとして、見られることによって始めて生まれ得るものとして描かなければならない」と。改めて顔について、さらには見る(見られる)ことについて、約40点の作品から考えてみたいと思います。

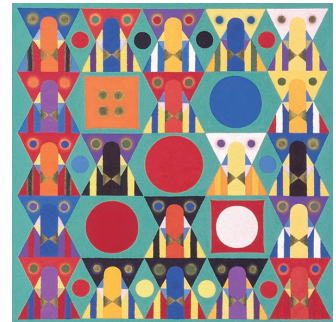
【出品作家】(予定、展示順)

ルイ・ル・ブロッキー、マグダレーナ・アバカノヴィッチ、灰谷正夫、岡部繁夫、浜口陽三、池田満寿夫、池田龍雄、郭 徳俊、鷹野隆大、秀島由己男、太田三郎、アレックス・カツ、奈良美智、チャック・クロース、マックス・ノイマン、棚谷 勲、宇治山哲平、佐藤正明、アンディ・ウォーホル、三木富雄、中村 宏、殿敷 侃、アルベルト・ジャコメッティ、岡本太郎、ジュリアン・シュナーベル、椿 昇、福田繁雄、草間彌生

開催概要

【会期】 2018年11月3日(土・祝)～2019年2月3日(日)  
【開館時間】 10:00-17:00 ※入場は16:30まで  
【休館日】 月曜日(12月24日と1月14日は除く)、12月25日(火)、12月27日(木)～1月1日(火・祝)、1月15日(火)  
【観覧料】 一般300(250)円、大学生200(150)円、高校生・65歳以上150(100)円、中学生以下無料  
※( )内は30人以上の団体料金  
※11月3日(文化の日)は全館無料

広島市現代美術館(学芸担当:竹口 広報担当:後藤、鈴木)  
〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園 1-1  
TEL/ 082-264-1121(代表) FAX/ 082-264-1198  
E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp



宇治山哲平《漲りて四方に》(部分)1984  
特集「顔のような」より



高松次郎《点》1961  
「コレクション・ハイライト」より



岡本太郎《若い夢》1974(1995 铸造)  
特集「顔のような」より



殿敷侃《は 2》1970  
特集「顔のような」より